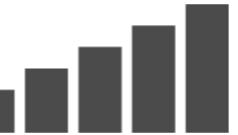


2025年度 学校教育自己診断アンケート

結果のご報告
～集計結果の分析と今後の教育活動改善に向けた取り組み～

枚方市立氷室小学校

アンケート及び結果分析の概要



カテゴリA:	運営・連携
カテゴリB:	学習指導
カテゴリC:	德育・育成
カテゴリD:	安心・安全

保護者アンケート回答期間

令和7年12月5日～令和7年12月24日

回答者数及び回答率

児童数: 240人(回答期間)

家庭数: 181家庭

回答数: 131

回答率: 回答数／児童数 55%

回答数／家庭数 72%

※ 55%の回答率は「ある程度の傾向を読むことができる率」となります。

※ 標本誤差 ±5～7%

A	10. 開かれた学校づくりをしている。
A	11. 地域の特色を生かした教育に取り組んでいる。
A	12. 授業参観・懇談会などを適切に行っている。
A	13. 教育方針や課題をわかりやすく説明している。
A	14. 子どもの評価（あゆみ）は適切でわかりやすい。
A	15. 学校諸費の額や用途は適切である。
A	22. 保護者の相談に気軽に応じてくれる。
B	3. 先生はわかりやすい授業づくりに努力している。
B	4. 子どもは、タブレット端末を有効に活用している。
B	6. ICT機器を有効に授業に活用している。
B	16. 友だち同士で意見交流する場面を作っている。
B	18. 子どもが学習方法を選択できる場面を作っている。
B	19. タブレットを活用した家庭学習が出されている。
B	23. 子どもは図書館などで本を借りて読んでいる。
C	1. 子どもは、安心して学校生活を送っている。
C	5. 学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている。
C	9. いじめのない学校づくりに取り組んでいる。
C	20. 学習環境の整備に努めている。
C	21. 健康管理、けがなどについて適切に対処している。
D	2. 子どもは、自分に良いところがあると思っている。
D	7. 心を育てる教育を適切に行っている。
D	8. 子どもの人権を尊重する態度で指導している。
D	17. 社会に必要な力を身につけさせている。

全体の傾向

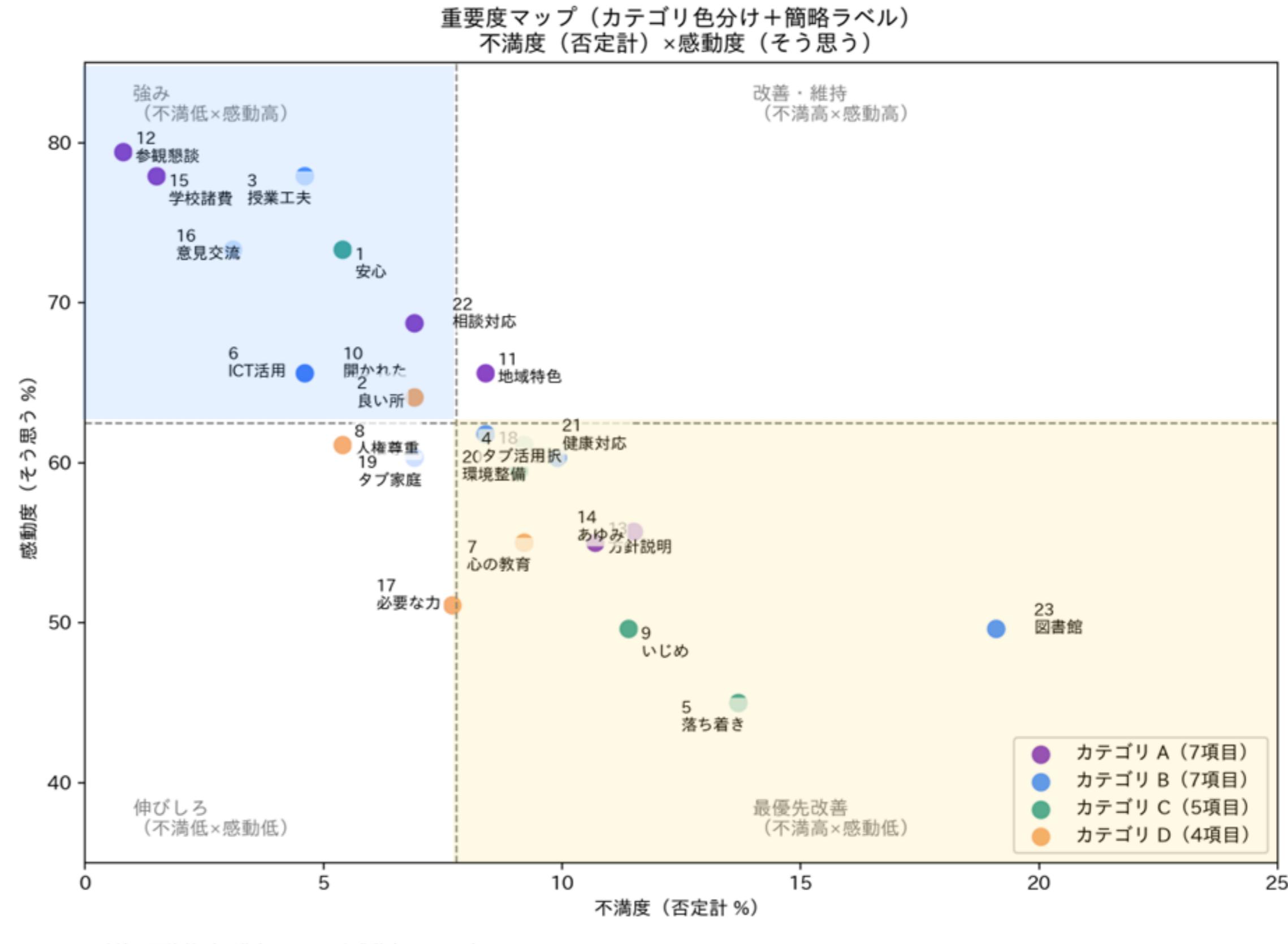


本校の学校教育に対する保護者評価は、全体として「**肯定的な評価が高く、不満は比較的低い**」傾向が見られる。

特に、多くの項目が「**不満度が低く、感動度が高い**」領域に位置しており、学校の取組や教育活動が概ね信頼され、強みとして受け止められていることがうかがえる。

一方で、一部の項目では**不満度が相対的に高く、改善の余地が示されており**、今後はそうした項目を重点的に見直すことで、学校全体の満足度向上につながると考えられる

カテゴリA: 運営・連携
カテゴリB: 学習指導
カテゴリC: 徳育・育成
カテゴリD: 安心・安全



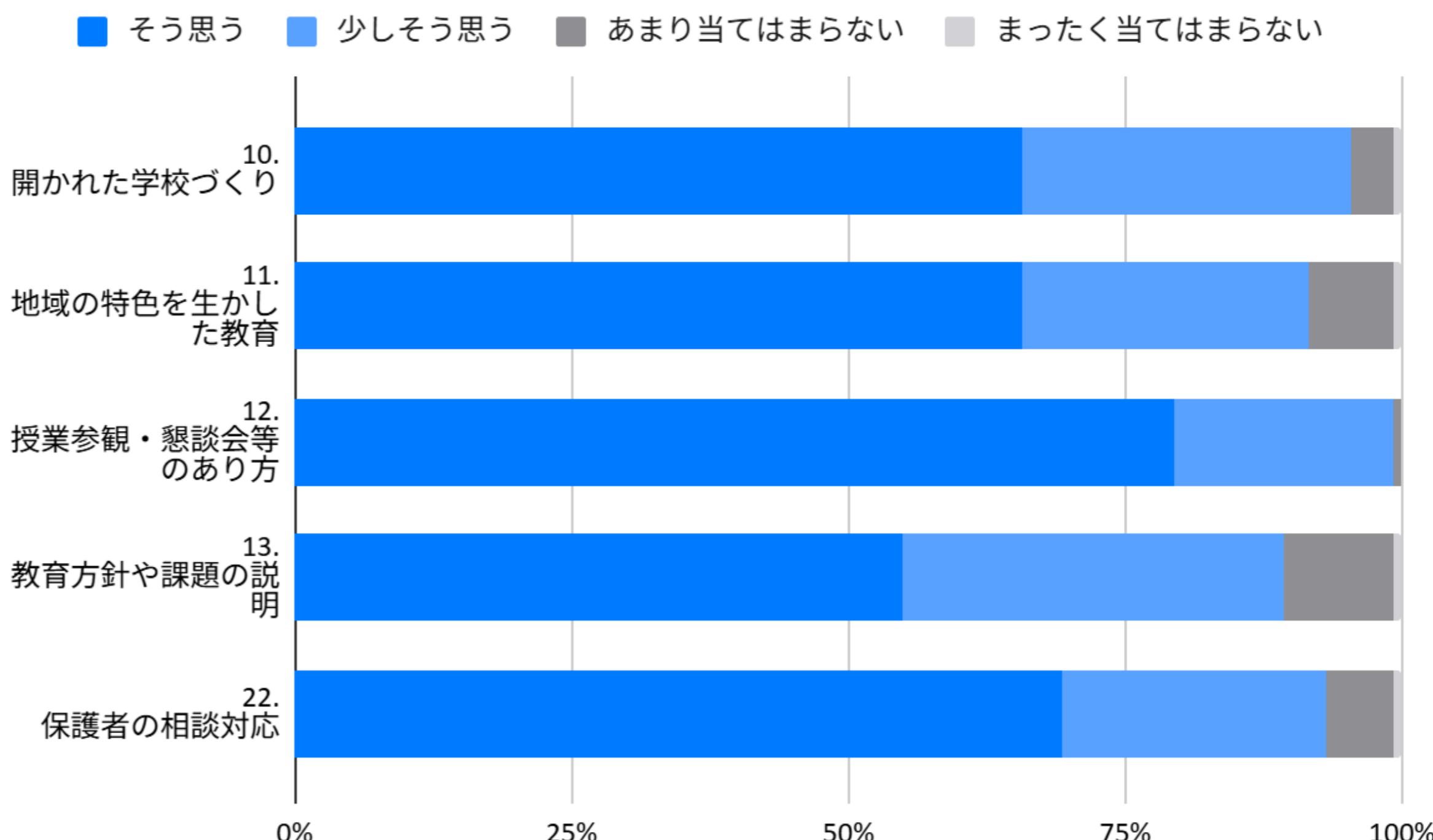
運営・連携 (主要設問)

開かれた学校づくりをめざして

多くの肯定的な評価をいただきました。

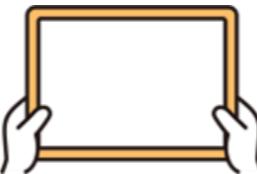
高い評価をいただいた項目：授業参観・懇談会のあり方や、個別の相談対応において、高い満足度をいただいています。

学校の姿勢：地域の特色を生かした教育や、教育方針の説明についても、**引き続き透明性の高い情報発信に努めてまいります。**



学習指導(授業と学び) (主要設問)

デジタル活用と、これからのお「自立的な学び」

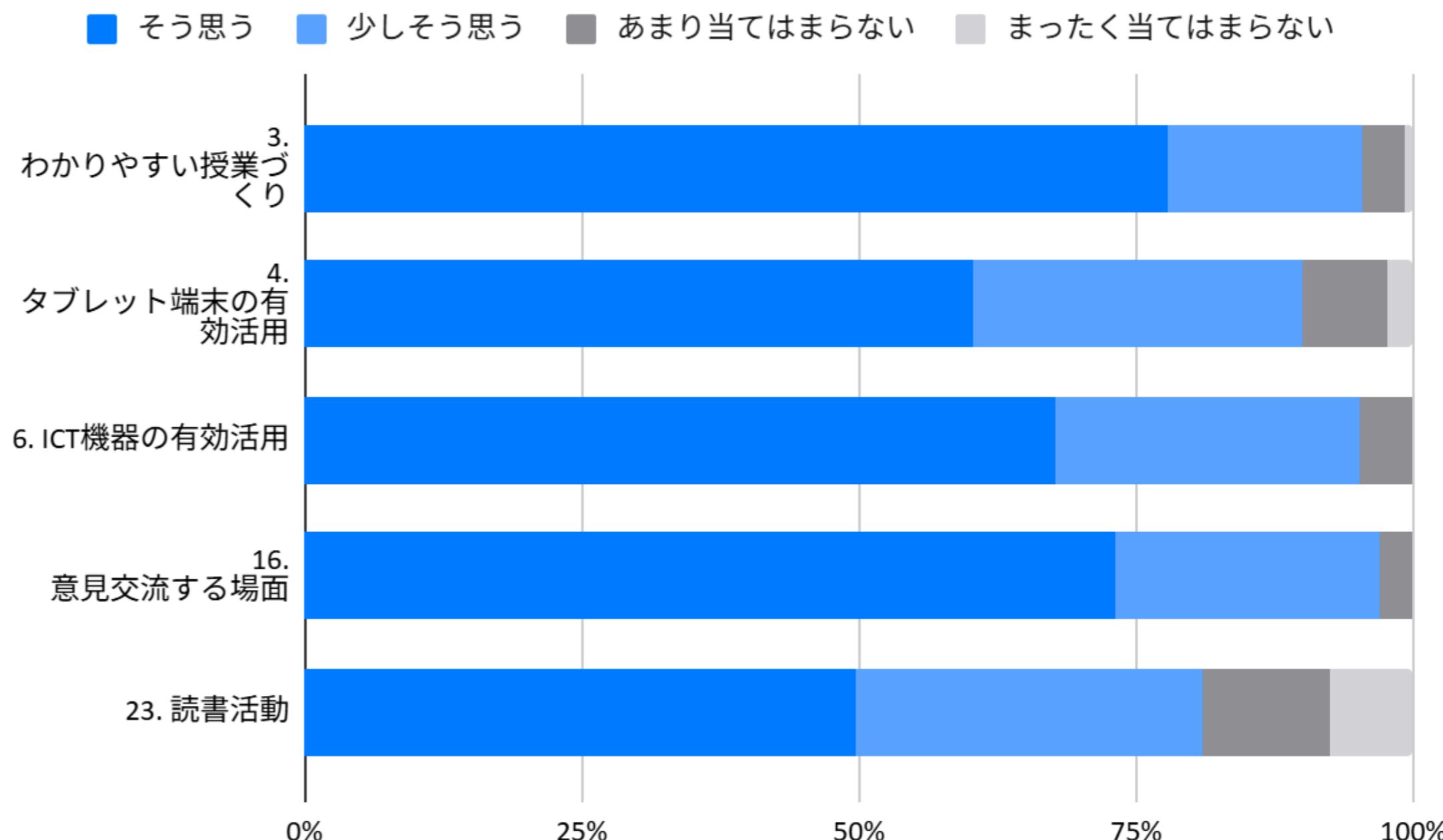


タブレット端末の活用など、新しい学びの形については概ね好評をいただいている

ICT活用の進展: **わかりやすい授業づくりやICT機器の活用**については、順調に成果が現れています。

これからの課題: 一方で、**読書活動**については他の項目に比べ、**肯定的評価**が80.9%に留まっています。

ご家庭へのお願い: 自立的な学習習慣を育むため、ご家庭とも連携して「読書」や「探究学習」の機会を増やしていきたいと考えています。



德育・育成

安心して学べる、落ち着いた環境をめざして

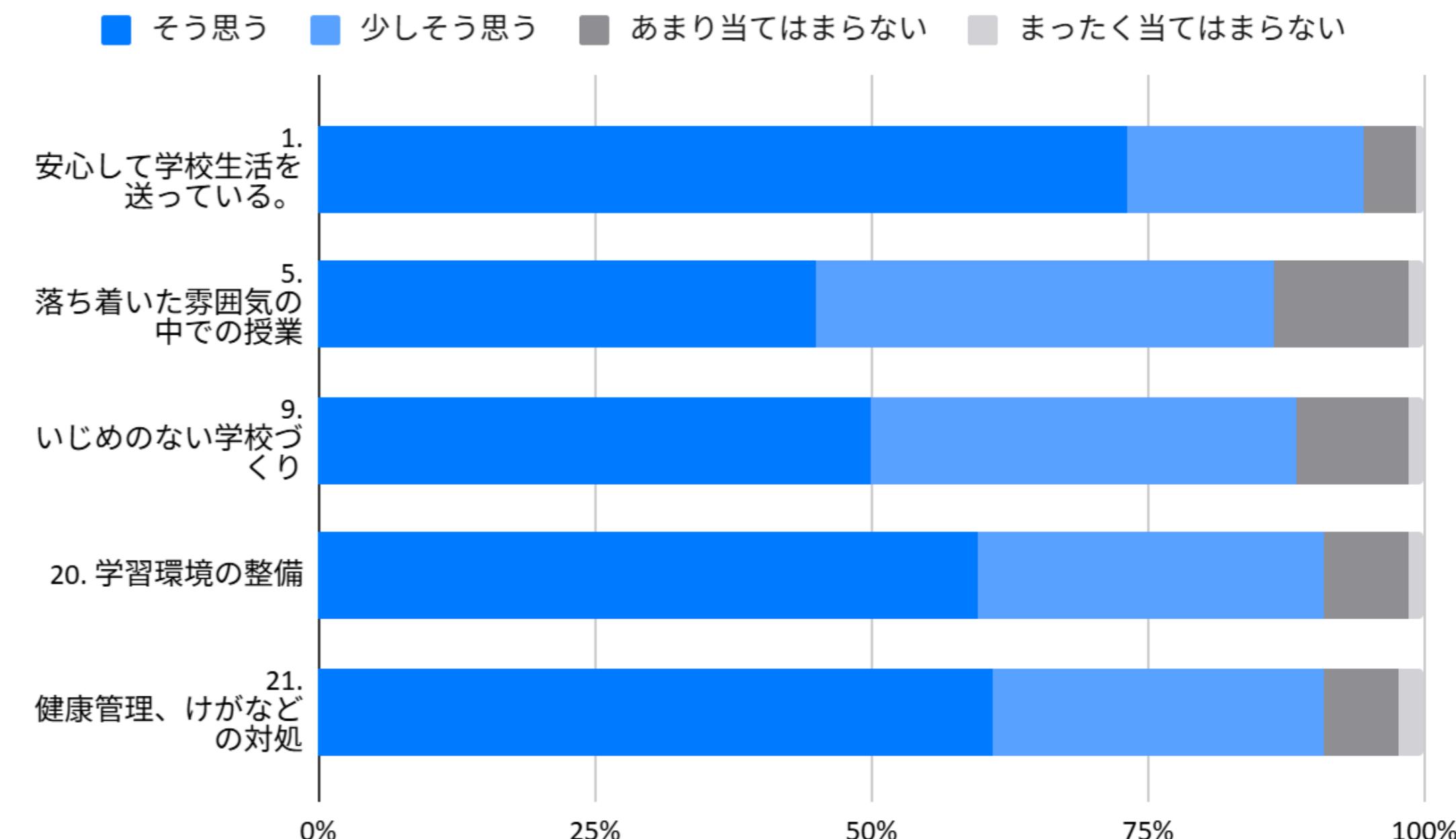


子どもたちが安心して学校生活を送れることは、私たちの教育の土台です。

現在の状況:全体として「安心して過ごせている」という評価をいただいています。

最重点課題の共有:アンケートの結果から、「教室の落ち着いた雰囲気づくり」と「いじめへの対応」の見える化が課題であることが明確になりました。

今後の取組:すべての児童がより穏やかに、安心して学べる環境づくりに尽力してまいります。



安心・安全

「自分の良さ」を実感し、社会へつなげる力



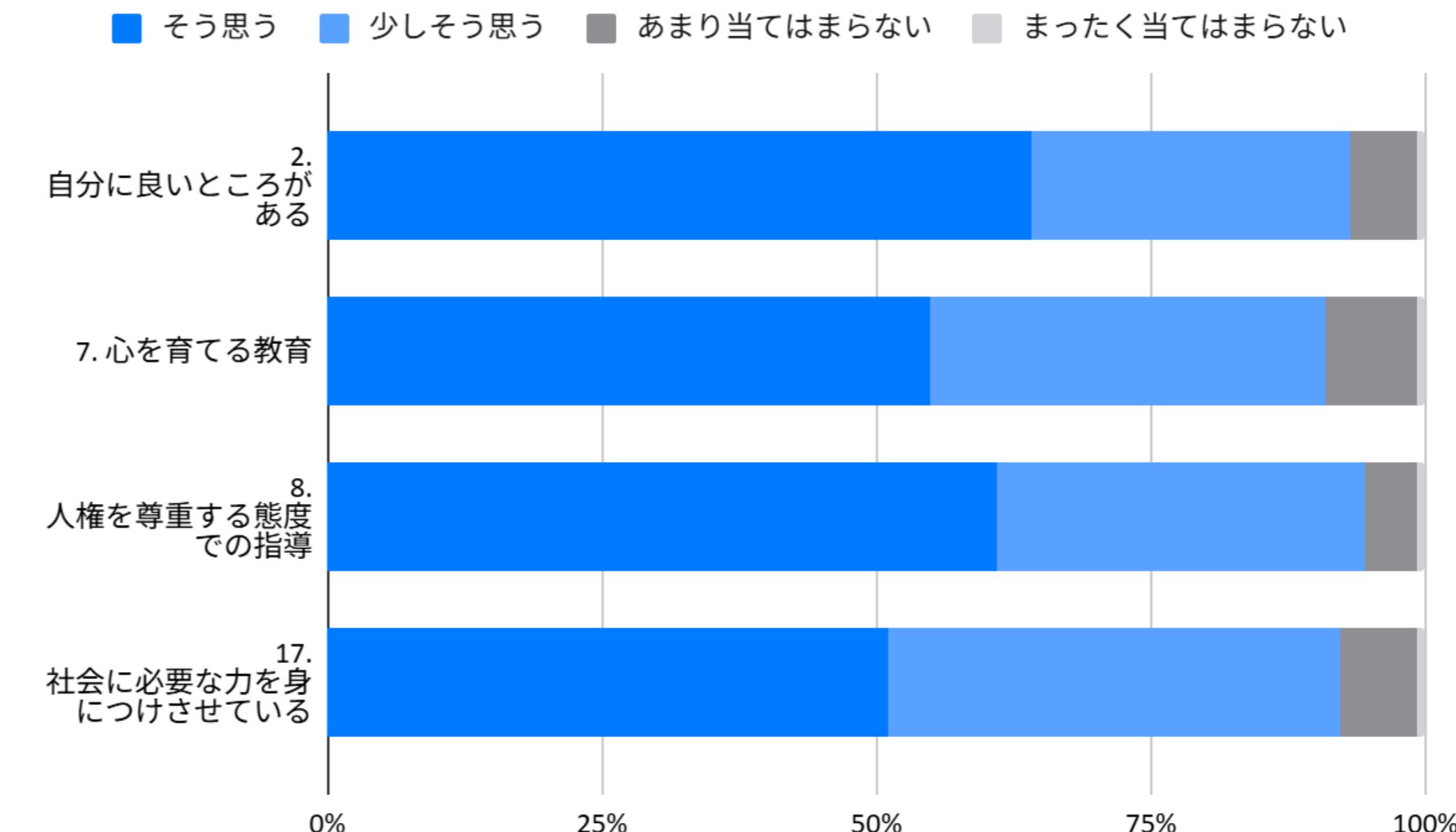
Created by Marie Van den Broeck
from the Noun Project

子どもたちの自尊感情を育む教育については、多くの保護者様から肯定的な評価をいただいている

心の教育の成果: 人権を尊重する態度での指導や、心を育てる教育の実践は、高い支持をいただいている

次なるステップ: 今後は、学んだことを「社会に必要な力」として自分自身で実感できるよう、指導を工夫してまいります。

見守りのお願い: 子どもたちが自分の成長を実感できるよう、ご家庭でも日々の小さな成長をぜひ励ましていただければ幸いです。

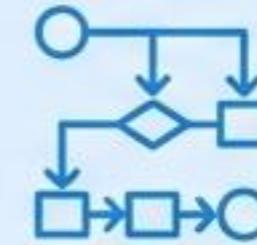


より穏やかに、安心して学べる環境づくりをめざして



規律づくりの システム化

全学年で共通の「望ましい行動表」を明文化・掲示。
個人の指導力に依存しない環境へ。



対応フローの 標準化と可視化

いじめ・トラブル発生時のフロー（認知→調査→指導→連絡→解決）を標準化。
組織的な対応を徹底。



情報発信

指標をモニタリングし、学校だよりやブログで進捗を定期報告。

PBIS

(Positive Behavioral Interventions and Supports)

科学的根拠に基づくポジティブな行動支援

導入の目的

最重点課題である「教室の落ち着いた雰囲気づくり」と「いじめ・トラブルへの組織的対応」を解決するための枠組みです。

概要

学校全体でポジティブな行動を育むためのシステムです。個人の経験則ではなく、科学的なアプローチを採用します。

具体的なアクションプラン：4つの柱

1.

期待される行動の明確化

「廊下は静かに歩く」など、望ましい行動をシンプルな言葉に集約し、校内に掲示して全員で共有。

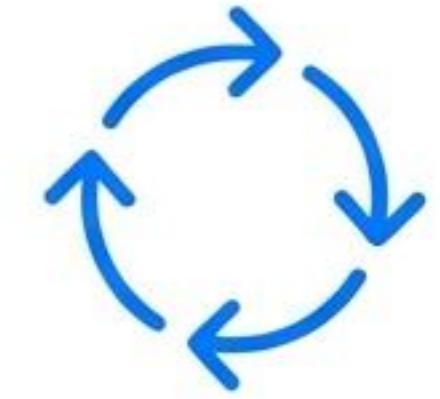


2.

2.

行動の指導とルーティン化

望ましい行動を、授業や生活の場面で具体的に教え、練習し、習慣化（ルーティン）させます。



3.

望ましい行動の承認

行動できた時に、すかさず具体的に褒める。ポジティブな文化を醸成し、行動を振り返る機会を創出。



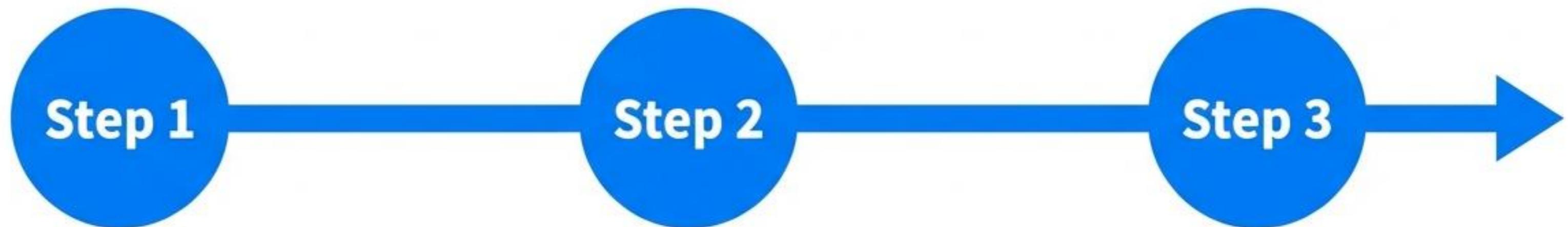
4.

データに基づく意思決定

問題行動（いつ・どこで・誰が）を記録・分析。データに基づいて指導計画や環境調整を行う。



今後の導入計画と展望



5・6年生の意見を取り入れ
「望ましい行動表」を作成・決定。

行動表の校内掲示。
全校生徒への周知。

「肯定的フィードバックカード」の試行など、
スマールスタートで導入開始。

「安心の質」を高める組織的な取り組みを推進します。
引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。